

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3470103569
法人名	社会福祉法人 IGL学園福祉会
事業所名	グループホームゆうゆう
所在地 (電話番号)	広島県広島市安佐北区安佐町後山1047番地 (電 話) 082-838-3434

評価機関名	(社福)広島県社会福祉協議会		
所在地	広島県広島市南区比治山本町12-2		
訪問調査日	平成20年3月7日	評価確定日	平成20年3月31日

【情報提供票より】(平成19年12月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成15年9月1日	
ユニット数	3 ユニット	27人
職員数	19 人	常勤 18人, 非常勤 1人, 常勤換算 18人

(2)建物概要

建物形態	○併設／単独	新築／○改築
建物構造	鉄骨造 地上3階建1～3階部分	

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	25,300 円
敷 金	○有(200,000円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	350 円	昼食 550 円
	夕食	600 円	おやつ 100 円

(4)利用者の概要(12月1日現在)

利用者人数	26 人	男性	4 人	女性	22 人
要介護1	7 人	要介護2	8 人		
要介護3	7 人	要介護4	4 人		
要介護5	0 人	要支援2	0 人		
年齢	平均 86.88 歳	最低	72 歳	最高	98 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	舟木病院 , 歯科クリニックエーデルワイス , IGL訪問看護ステーション
---------	---------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホームゆうゆう」の母体法人であるIGL学園福祉会は、在宅から施設まで、利用者や地域のニーズに応じた幅広い事業を展開されており、法人内の他事業所との連携により利用者のニーズに応じたサービスが24時間提供できるよう取り組まれています。認知症アドバイザーの資格を持つ職員が啓発セミナーの講師として、地域住民へ認知症についての理解を広げる活動を行うなど、事業所の持つ機能を地域に還元しながら、地域に密着したホームづくりがすすめられています。

利用者の重度化にともない、食事づくりの負担を減らすことを目的としてセントラルキッチン方式を取り入れたことで、利用者に関わる時間が増えゆったりと過ごされていますが、簡単な調理や盛り付けなどは利用者と一緒に行い、家庭的な雰囲気を失わないような配慮もあわせて行われています。訪問時には、慣れた手つきで包丁を使う利用者の姿が見受けられ、利用者一人ひとりの個性や「好きなこと」「できること」「得意なこと」が生活の中で発揮できるよう働きかけが行われています。

また、ボランティア講師を招いたクラブ活動(絵画、書道、裁縫、カラオケ等)が活発に行われており、利用者の作品を飾り、作品が家族や訪問者の目に触れることで自主的に活動に参加できるよう動機づけの工夫も行われています。リビングには、利用者の作品が月ごとに展示されており、季節の花とともに、利用者が季節の移り変わりを感じられるよう工夫するとともに、玄関横の小さな黒板には、イラスト入りのメッセージがその日ごとに書かれており、職員の熱い思いが訪問者にも伝わってきました。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価における改善点をホームで実践したところ、利用者に混乱が生じ、結果がサービスに活かされなかったことが過去にあったようです。今後は、ホームの実情に応じた対応を第一に考えながら、運営推進会議等でまず検討を行い、ホームの特徴を活かしながらステップアップした取り組みとされることを期待します。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	ユニットリーダーを中心に、自ら提供するサービスの振り返りを行いながら、ユニットごとの自己評価がまとめられています。また、自己評価、外部評価結果を法人の会議で報告するなど、評価結果をホームだけでなく、法人全体のサービスの質向上に活かしていく仕組みがあります。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議が、現在までに3回開催されており、地域住民、行政、地域包括支援センター、併設施設、家族、利用者代表等、様々な立場の人の参加が得られるよう積極的に働きかけが行われています。ホームについてももっと知りたいという地域の声から、利用者が行事案内を一軒づつ持参し、ホーム行事へ招待するなど、地域とのつながりを深める取り組みがすすめられています。また、会議録も整備されており、欠席者には、ケアミーティングで内容を周知するなど、会議をサービスの質向上につなげる体制が整えられています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	これまでに大きな苦情は寄せられていませんが、家族の意見を尊重し、意見を運営に反映するよう体制が整えられています。また、敬老会の前には、家族交流会を開催し、食事を一緒にとるなど、家族が意見を伝えやすい雰囲気づくり、機会づくりに取り組まれており、敬老会、忘年会等のホーム行事の機会を活用した家族の思いの汲み取りに努められています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	運動会、盆踊り、とんど、公民館祭りなどの地域行事への積極的な参加やホーム主催の焼肉パーティーに近隣の人を招くなど、地域の人との交流を深められており、利用者が地域の一員であることを認識し、生活の中に喜びや楽しみを見いだせるよう取り組まれています。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で考えたホーム独自の理念「家族のように愛し敬い支え、共に歩いていくグループホーム」が、利用者によって墨字で書かれており、リビングやスタッフルームのよく見える位置に掲げられています。また、職員の目標を「一人ひとりを大切にし、尊重した声かけ」と定めるなど、理念を具体化し、ケアに活かせるよう取り組まれています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼時に職員全員で理念を唱和し、浸透に努められている他、法人で作成されたコンセプトブックを常に携帯し、理念を意識しながら、利用者一人ひとりを尊重したケアの実践に向けて取り組まれています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運動会、盆踊り、とんど、公民館祭りなどの地域行事への積極的な参加やホーム主催の焼肉パーティーに近隣の人を招くなど、地域の人との交流を深められており、利用者が地域の一員であることを認識し、生活の中に喜びや楽しみを見いだせるよう取り組まれています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ユニットリーダーを中心に、自ら提供するサービスの振り返りを行いながら、ユニットごとの自己評価がまとめられています。また、自己評価、外部評価結果を法人の会議で報告するなど、評価結果をホームだけでなく、法人全体のサービスの質向上に活かしていく仕組みがあります。		外部評価における改善点をホームで実践したところ、利用者に混乱が生じ、結果がサービスに活かされなかったことが過去にあったようです。今後は、ホームの実情に応じた対応を第一に考えながら、運営推進会議等でまず検討を行い、ホームの特徴を活かしながらステップアップした取り組みとされることを期待します。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議が、現在までに3回開催されており、地域住民、行政、地域包括支援センター、併設施設、家族、利用者代表等、様々な立場の人の参加が得られるよう積極的に働きかけが行われています。ホームについてもっと知りたいという地域の声から、利用者が行事案内を一軒づつ持参し、ホーム行事へ招待するなど、地域とのつながりを深める取り組みがすすめられています。また、会議録も整備されており、欠席者には、ケアミーティングで内容を周知するなど、会議をサービスの質向上につなげる体制が整えられています。		地域の様々な立場の人の参加を得て、運営推進会議が開催されていますが、ホームの現状報告を主とした会議となっているようです。今後は、ホームとしての姿勢、自己評価・外部評価結果について報告し、ホームの取り組みを地域に伝え、様々な立場からの意見を具体的にサービスに反映させることで、さらに地域の理解と協力を得られることを期待します。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に区の担当課、地域包括支援センターの参加が得られており、協働してサービスの質向上に取り組まれています。また、地域包括支援センター所長を講師に招いた学習会の開催や区主催の介護教室へ利用者の家族とともに職員が参加するなど、積極的に情報交換・共有に努められています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年4回発行される「グループホームだより」や家族の訪問時に、利用者のホームでの暮らしぶりや生活の様子について報告されています。また、預かり金の出納の確認や日用品の補充、ホーム訪問の促進など、利用者の心身状況や状態変化に応じた細やかな報告が行われており、個別の報告・連絡を行いながら家族の安心感が得られるよう取り組まれています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	これまでに大きな苦情は寄せられていませんが、家族の意見を尊重し、意見を運営に反映するよう体制が整えられています。また、敬老会の前には、家族交流会を開催し、食事を一緒にとるなど、家族が意見を伝えやすい雰囲気づくり、機会づくりに取り組まれており、敬老会、忘年会等のホーム行事の機会を活用した家族の思いの汲み取りに努められています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の経験やスキルアップを目的とした法人内の異動はありますが、利用者のダメージを考慮し、必要最小限に抑えるよう配慮されています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回、定例の職員会議を利用して、様々な研修が実施されています。また、外部研修へ参加する機会を確保するとともに、職員一人ひとりのスキルに応じた研修が受講できるよう配慮されています。また、研修修了後は、職員全員が研修内容、情報を共有できるよう、報告の機会を設けるなど、職員のスキルアップに積極的に取り組まれています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ地域内の4つのグループホームと3か月に1回、親睦をかねた交流会が開かれています。また、利用者と一緒に近くのホームを訪問するなど、同業者とのネットワークを広げながら協力関係を深め、サービスの質向上に取り組まれています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に利用者の自宅を訪問し、生活環境や「好きなこと」等の把握が行われています。現在までに体験入居された人はいませんが、これまでの生活スタイルや習慣を重視した、安心して過ごせる部屋づくりに努めるとともに、利用者がホームの環境になじめるまで、できるだけ職員がそばに寄り添うなど、環境の変化による不安やストレスが生じないよう配慮されています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活場面を通して、利用者一人ひとりの「できること」「得意なこと」を尊重した役割づくり、場面づくりに取り組まれており、家事などの日常の様々なことを利用者と職員が協働して行っています。訪問時には、食事の準備や後片付け、洗濯物干しや訪問客へのお茶だしなど、職員の見守りのもとで、利用者が積極的に活動されている光景が見受けられました。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者のこれまでのライフスタイルを尊重するとともに、日々の関わりを通して利用者の思いを汲みとり、気持ちに添えるよう努められています。職歴、生活歴の把握に努めながら、利用者一人ひとりの個性が暮らしの中で活かせるよう配慮されています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族の思いを丁寧に聴き取ったうえで、それらを反映した介護計画が作成されています。また、入居時には、暫定介護計画を作成し、一定期間、見直しを随時行いながら、その人らしさを大切にしたい介護計画が作成できるよう取り組まれています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画を半年ごとに定期的に見直されており、利用者・家族の意向をふまえたうえで、ケアチェックシートに記録された情報について、ケアミーティングで話し合いながら、新たな計画が作成されています。また、退院直後など、心身機能の低下などにより状態が変化しやすい時期には、暫定的な介護計画を立て様子を見守るなど現状に即したサービスが提供できるよう取り組まれています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人内の訪問看護ステーション等との連携により、利用者のニーズに応じたサービスが24時間提供できるよう取り組まれています。また、認知症アドバイザーの資格を持つ職員が啓発セミナーの講師として、地域住民へ認知症についての理解を広げる活動を行うなど、事業所の持つ機能を地域に還元しながら、地域に密着したホームづくりがすすめられています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者一人ひとりのかかりつけ医の確認が行われており、往診も実施されています。また、法人内の訪問看護ステーションと綿密な連携が図られており、適切な医療が受けられる体制が整えられています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者・家族の意向を尊重したうえで、看取りの必要が生じた場合等の対応指針が定められています。入浴など、ホームでの対応が困難な場合にも、医療機関、訪問看護ステーション、法人内の他の施設とも連携を図りながら、利用者の希望に添ったケアが提供できるよう、職員全員で協力して取り組まれています。また、家族の思いに配慮し、関係を断ち切らないよう支援されており、利用者が亡くなられた後も家族から感謝の便りが届いたり、訪問されることもあります。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の実践目標である「一人ひとりを大切に、尊重した声かけ」にもあるように、利用者のプライド、プライバシーを大切にしたい支援に取り組まれています。また、「ホームだより」への利用者の写真の掲載についても契約時に説明し、同意を得るなど、個人情報の保護を徹底されています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者一人ひとりの「得意なこと」「やりたいこと」「なじみのあること」などを把握されており、さりげない言葉かけを行いながら、一人ひとりのペースを尊重した暮らしが支援されています。また、レクリエーションでは、歌の歌詞をふくらませて回想のきっかけづくりを行ったり、サラバンド体操を取り入れるなど、利用者が「好きなこと」に自主的に取り組めるよう工夫されています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状態に配慮し、食事づくりの負担を減らすことを目的として、セントラルキッチン方式が取り入れられています。これにより、食事時間に余裕ができ、利用者に関わる時間が増え、ゆったりと過ごせています。そのうえで、簡単な調理や盛り付けなどは、利用者と一緒に、家庭的な雰囲気を失わないような配慮も行われています。訪問時には、慣れた手つきで包丁を使う利用者の姿も見受けられ、利用者の個性が発揮されていました。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者一人ひとりの希望を尊重し、毎日・隔日・週2～3回の入浴が実施されています。家庭的な浴室ですが、広いスペースが確保されており、手すりやチェアなどにより安全に配慮されている他、職員の声かけや介助によって、利用者が安心して入浴できるよう取り組まれています。また、仲の良い利用者同士で入浴を行う機会を設けるなど入浴が楽しみとなるよう工夫されています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴や「好きなこと」の把握に努められており、それらが生活の中で活かされるよう働きかけが行われています。また、ボランティア講師を招いたクラブ活動(絵画、書道、裁縫、カラオケ等)が活発に行われており、利用者の作品を壁に飾り、作品が家族や訪問者の目に触れることで自主的に活動に参加できるよう動機づけが行われており、一人ひとりの持つ力が生活の中で発揮できるよう努められています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム内に閉じこもることのないよう、頻繁に外出の機会がもたれています。散歩、ドライブ、買い物等の他、家族同伴のもと、日帰りや一泊旅行が実施されており、リビングルームの壁に飾られた思い出の写真が利用者の気分転換にもつながっています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1階部分の各ユニット共通の玄関の出入り口は、職員数が少なくなる夕方、夜間は安全のため施錠されていますが、日中の鍵かけは行われていません。また、エレベーターも利用者が自由に使用することができるため、1～3階の職員間で連携を密にとり、利用者の安全に配慮しながら、移動が自由に行えるよう取り組まれています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設の施設と合同で、消防避難訓練が年2回実施されており、協力体制も整えられています。		災害はいつ発生するか予測できませんが、いざという場合に地域住民や地域組織の協力が得られることで、さらに安心した生活につながっていくと考えます。訓練の実施状況について、運営推進会議で報告されていますので、今後は、地域の人と話し合いを重ね、災害時における地域との協力体制を築いていけることを期待します。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに配慮した献立が栄養士によって立てられています。利用者の1日の食事・水分摂取量、排泄状況などは、個別のケアチェックシートで、確認、記録されており、記録をもとに一人ひとりの状態に即した適切な支援が行われています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	十分な採光が確保された広く開放感のあるリビングルームの窓からは、田園風景が一望でき、ゆったりとしたソファで、思い思いにくつろぐ利用者の姿が見受けられました。また、リビングルームには、利用者の作品が月ごとに展示されており、季節の花とともに、利用者が季節の移り変わりを感じられるよう工夫されています。また、玄関横に置かれた小さな黒板には、イラスト入りのメッセージがその日ごとに書かれており、職員の熱い思いが訪問者にも伝わってきました。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりのなじみのある生活が継続できるよう、利用者・家族と相談しながら、柔軟な対応が行われています。フロアを畳に変えたり、不要なドアを取り外し続き間にした居室がある他、持ち込んだ家具の配置を自宅と同じにすることで、住み慣れた部屋を再現できるよう配慮されており、利用者が環境の変化で混乱することなく、落ち着いて暮らせる居室づくりを優先しながら、居心地良く過ごせるよう工夫されています。		

小規模多機能型居宅介護 認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホームゆうゆう I

評価年月日 年 月 日

記入年月日 年 月 日

※この基準に基づき、別紙の実施方法
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 氏名 岩野 ゆかり

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

I 理念の基づく運営

1 理念の共有

1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	理念のなかに地域についての言及はないが、基本方針で、地域との連携を図ると掲げている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	実施している。 毎日朝礼でスタッフで唱和している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	取り組んでいる。 地域の人々には、グループホームとは何か、また認知症とはどういうことなのか、なかなか理解されにくい現状があるため、まずはこの施設を訪れていただく事をしている。		

2 地域との支えあい

4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	実施している。 ホームでの行事に参加していただくよう、チラシを持参し、地域の方の家に訪問した。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	実施している。 地元あさひが丘の行事で、夏祭りで地域住民と盆踊りに参加、後山神社の秋祭り、日浦西小、日浦小の運動会に参加、など。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	私個人としては取り組んでいないが、職員とホーム長は、安佐地区の様々な公民館(鈴張、筒瀬)に出向き、認知症について地域の住民の理解普及に努めている。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	実施している。 以前の評価を行った際、利用者全員が同じ茶碗、湯のみを使っているとの指摘があり、以来個人別とした。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	実施している。 第3回推進会議を6月8日に実施し、その後ケアミーティングで報告を受け、サービス向上に生かしている。		
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。			
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	実施している。 全体として特に学ぶ機会を持っているわけではないが、認知症対応型のホームのため、周知の内容であり、また支援している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。		○	高齢者虐待防止法関連法について学んでいきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

4 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	実施している。 重要事項説明書を提示し、説明している。 納得された上で署名、捺印をいただいている。	○	契約、解約に直接携わった事はないが、介護保険も消費者契約法の適用があるので、特に重要事項説明書は正しく理解したい。 利用者、家族の不安に対して正しく答える為に必要と必要だと考えており、今後取り組んでいきたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	認知症があるためか、ご利用者から聞かれることはないが、きっかけがあると感情的に怒られる利用者からはその都度、話を伺っている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	実施している。 敬老会、忘年会などでご家族に出納帳を見ていただき、サインをいただいている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族から運営に関しての不満等は上がった事がない(在宅時が大変だったためか?)		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営に関しては、ホーム長よりケアミーティング時に話がある。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	職員はぎりぎりの人数で、日々の業務に当たっているため、なかなか困難である。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	離職は仕方のない面もあり、難しいが、異動に関しては、なるべく利用者に配慮している。		
5 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	当グループホームに勤務して1年4ヶ月で研修に参加した。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	12月6日に地域のグループホーム職員の交流会が開催された。近くのファミリーホームへ当ホームご利用者とともに訪問した。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	ホーム長は職員のストレス軽減のために、話をよく聞いて、改善のために行動されている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	ホーム長は、職員が平等に研修を受講できるように努めておられる。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	各居室担当が、半年に1度はアセスメントのため、本人と話をしている。また、毎日の生活の中で変化に気付いた場合はすぐ、話を聴いている。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	取り組んでいる。 当ホームを利用になられる前の状態等も含めて面談させてもらっている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。			
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならないうちに馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入所されたばかりのご利用者に対しては、かなり不安になられるので、慣れられるまではスタッフが側にいる時間を多くして対応している。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理を共に行う中で、時折スタッフにとって馴染みのない食材(例えばそうめんうりなど)がある場合、ご利用者から切りかたや調理方法を教わっている。		
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	対応に苦慮する場合はご家族に在宅での生活状態等お聞きし、アドバイスを求めている。		
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	機会があればいつでも、当ホームに気軽に來ていただき、フロアーや居室で過ごされている。また宿泊の希望があれば何日でも泊まっていたい。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	地元の入所者のところに、近所の方がよく来所され、楽しく会話されている。スタッフにも「これなら安心じゃ」と声をかけてくださった。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	フロアーにはソファを用意しており、昼食後などには皆様に座っていただき、スタッフも間に入り、会話ができるように取り組んでいる。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。			
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	居室で畳を希望されれば、入れていただいている。また冬場にはコタツを出されるなど、今までの暮らし方でお過ごしいただいている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	実施している。 前の施設や病院から送られてくるサマリーを参考にしたり、ご家族との話を詳しく聴く様にしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一応集団での生活であるが、皆様一律の生活様式ではないので、個別に把握するよう配慮している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	半年毎に介護計画の見直しを行っている。 会話が出来るご利用者とは話をする。又リーダーやフロアスタッフとケアミーティング等で話し合いをする。		
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	病気等で入院されたときなど、退院時に ADL がかなり低下されている事が多いので、そのときには暫定計画を作成している。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日の、ご本人の生活実態をケアチェックシートに記入している。	○	毎日の生活状態を見ているが、介護計画を作成する時に活用していない事が多いので、気多くに頼らず、記録で確認していきたい。

3 多機能性を活かした柔軟な支援

39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。			
----	--	--	--	--

4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	絵画、民謡、お茶会等、地域の方のボランティアで実施している。 昨年のクリスマスには、民生委員さんが、サンタクロースに扮して来所して下さった。		
----	---	---	--	--

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	実施していない。 同グループ内で介護に関する事業が整っている為、グループ内で話し合いをしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	取り組んでいない。 地域包括支援センターと協働していない		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	実施している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。			
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	医療面では、訪問看護師に来所してもらったり、電話相談を行っている。また、PT に日常生活動作についても相談を行っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院されたご利用者には定期的にお見舞いに伺い、状況の把握をさせていただいている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	実施している。 医師から医療面の情報を早く得てスタッフで共有するようにしている。その上でご家族やご本人の意思を出来るだけ受け入れるようスタッフ間で話し合いを持っている。		
48	○重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	ホーム長や担当リーダーが中心となり、スタッフ全員で支援に当たっている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	何度かご家族と面接させていただいた上で、ご家族の意向に添うようにしている。 他事業所へ変更される場合は、当ホームでの生活状況を文章で報告させていただいている。		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重

50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	実施している。 当グループホームの理念にも掲げ尊重した言葉かけをすよう心掛けている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	実施している。 表情や動作という、非言語的なものも合わせて支援するよう心掛けている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	可能な範囲で実施している。 余りにも不潔な行為や、本人のペースでは何も事が運ばない場合にはパターンリズムで行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	---------------------	----------------------------------

(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	実施している。 美容院にご家族と行かれているご利用者もおられる。毎日、化粧をされるご利用者に対してもスタッフが対応している。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	実施している。 野菜を切ったり、食後の食器洗いを手伝っていただいている。また時折、味見をしていただいている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	実施している。 体調にあわせまた医師にも事前に相談しておいた上で実施している。毎晩ワンカップを1本召し上がって眠られる方もある。		
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	実施している。 本人のプライドを傷つけることのない様支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	出来る限り実施している。 何日も入浴されていない認識がある方に対しては、不潔にならない範囲内で決めさせていただいている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	実施している。 眠そうにしている方や、やや元気のない表情をされている方、夜間眠りの浅かったご利用者には、スタッフから声を掛けるようにもしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	実施している。 生活歴や職歴より、お一人お一人に違った支援を行っている。 裁縫、調理、絵画、カラオケ、書道等		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	実施している。 お金の管理が出来る方についてはスタッフとともに買い物に行き、ご自分で精算していただいている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	実施している。 散歩には一人で行ける方は、お一人で、難しい方はスタッフと共にでかける。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	実施している。 花見、日帰り旅行、1泊旅行、紅葉狩り、食事会等、行っている。家族の参加もある。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	実施している。 電話は、居室から架けられるご利用者もおられる。通常はスタッフに声をかけていただいている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	実施している。 ご利用者のお友達やご家族がいつでも「ちょっと近くに来たから」と気軽に来所されることも多い。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	---------------------	----------------------------------

(4) 安心と安全を支える支援

65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	実施している。 身体拘束は考えられない行為として取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。			
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	実施している。 帰宅願望の特に強いご利用者の対応については、他フロアのスタッフと内線連絡により、そっと様子観察を「している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	不要な物は片付けるようにしている。 異物を口にされるご利用者についてはスタッフが目を離すことのない様心掛けている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリハット報告により、早期に注意喚起し、事故再発しない方法をスタッフで検討するようにしている。		
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。			

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。			
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	ご利用者のレベル低下や、日常生活の変化が長く続くような場合には、予めご家族へ予測されるリスク等を含めてご連絡させていただいている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	気付いたスタッフは、他のスタッフに申し伝え、様子観察を全員で行うよう心掛けている。また、医師への相談、訪問看護への相談をしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	ご利用者がどういう効用の薬を飲んでおられるかは理解しているが、副作用までは理解していない。 処方箋はすぐに確認できるように保管している。	○	各居室担当は、自分の担当している利用者の薬品名、効用や副作用くらは勉強していきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	実施している。 個別に対応しており、あるご利用者には毎朝バナナと冷ミルクを、別の方にも冷ミルクを摂っていただき、また身体を動かしていただくよう心掛けている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	実施している。 スタッフの声掛けで出来るご利用者には、声掛け後、確認し、できないご利用者には側について口腔ケアをしてもらっている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	実施している。 調理は栄養士が作成した献立に基づいて行っている。 量については，お茶碗の大きさを変える等で，見た目にはわからないようにして調節している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウィルス等)	実施している。 感染症予防マニュアル及び感染症対策グッズも一式用意している。日々の掃除にも対策を講じている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	実施している。 台所の手ふきタオルは一日に何度か交換している。 食器、包丁等は高温乾燥をしている。 まな板は一日の終わりに必ず塩素消毒をしている。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	実施している。 いつも開放し、玄関に黒板を設置して今日の一言、行事などを書いている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等）は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	飾り物、壁画などで生活感、季節感を取り入れている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。			
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	実施している。 ご本人やご家族の意向に重点をおき、対応している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	実施している。 ご利用者の健康面や様々な感染症予防の為に昼食後等に時間を決めて換気している。 居室においてはご本人がおられない時間帯に換気している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	実施している。 全室バリアフリーである。トイレには手すりを設置し、廊下にはサイドバーがある。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。			
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	花の好きなご利用者には、ベランダにプランターを用意し、楽しんでいただいている。外回りにはご利用者とスタッフの手で季節の花を植えている。		

事業所名 グループホームゆうゆう II

評価年月日 年 月 日

記入年月日 年 月 日

記入者 職 氏名 須本 美智子

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

I 理念の基づく運営

1 理念の共有

1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	理念はないが、基本方針で掲げている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	実施している。 毎朝、朝礼時 IGL グループのコンセプトブックにて、グループホームの理念を唱和し、共有している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	実施している。 地域での(近隣の)行事に参加し、また運営推進委員会も開催している。		

2 地域との支えあい

4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	実施している。 グループホームでの行事等の参加の声掛け、チラシ配りを利用者さんと一緒に回る。またこちらからも地域の行事に参加している。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	実施している。 運動会、秋祭り、公民館祭り、盆踊り、とんどなど。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	認知症アドバイザーとしてホーム長と一部のスタッフが認知症について地域の方々に理解を広めている。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	前回指摘はなし。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	実施している。実施後は必ずケアミーティングにて報告、話し合いを行い、向上に活かしている。		
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。			
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	グループホームで学ぶ機会はないが、研修にて知っている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体の虐待(押さえつけたりする)までしないが、言葉による虐待などに気をつけ、スタッフ同士注意をしあっている。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	-----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

4 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	実施している。 重要事項説明書を提示し、説明し、了解を得て署名、捺印をいただいている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。			
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	実施している。 ご家族の面会時に報告している。また健康状態などの変化時は早めに状態をご家族に報告している。金銭管理も入金時に残高照合サインをもらっている。職員の異動も敬老会、忘年会、グループホームの便りなどで報告している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族より苦情が出たことがない。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営に関しては、リーダーミーティング、ケアミーティングでホーム長より話がある。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	出来るだけ努めるようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	配慮している。		
5 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	実施している。 研修に参加の機会を確保している。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	3ヶ月に1回地域のグループホームの職員との交流会を開催し意見や情報交換をしたりしている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	職員のストレスに対する話を傾聴してくれて、また改善できる事は早めに対処してくれる。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	研修等は平等に行けるように配慮してくれる。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	日々の関わりの中で小さな変化などにも気付いたらすぐに話を聴くように努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	実施している。 相談にこられたり、面談時ご家族よりしっかり話を聴いている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	実施している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	実施している。 ホームに慣れられるまではいつもスタッフが側にいて、安心出来るよう努めている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	例えば調理をする上で忙しい時野菜を切るのを手伝ってもらったりして助けてもらうことがよくある。		
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	支援するとき、困難なことや対応しにくい時には、ご家族にも協力を得て一緒に支えていく関係を築いている。		
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	気軽に面会に来ていただける様日頃から良い関係になるよう努めている。 また、県外からご家族が会いに来られ、衣類の入れ替えや久しぶりの対面に喜ばれ、宿泊される時はこころよく過ごしていただく。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。			
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	フロアのソファで皆で楽しくテレビを観たり出来るようにしている。ゲームなども皆で一緒に楽しめるよう工夫している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	例えご利用者が他の施設に移られたり（特養など）、亡くなった後も、来所したり関係を保ちたいと言っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時に、畳を希望される方には畳を敷いたり、信仰されている仏具を入れたりしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	実施している。 ご家族や本人にライフスタイルヒストリーへの記入をしていただいたり、又サマリー、相談記録などで把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	おひとりおひとり違うので、個別に対応できるよう、配慮しているが、利用者同士、良い関係が支援できるよう集団で楽しめるよう工夫もしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	---------------------	----------------------------------

2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人やご家族の希望、またスタッフ同士の情報交換でアイデア、意見を取り入れ、介護計画を作成している。		
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	状態変化によっては暫定プランを作成し、ご家族や必要な関係者とも話し合う。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の記録で、変化があれば赤字で記入し、すぐわかるように工夫している。 1ヶ月に一回評価の見直しに努めている。		

3 多機能性を活かした柔軟な支援

39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	同じグループ内に事業所が整っているので柔軟にかかわることが出来る。		
----	--	-----------------------------------	--	--

4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	カラオケ、お茶、手芸、書道、絵画など地域の方のボランティアで実施している。小学生との交流を行ったり、クリスマスには民生委員の扮するサンタクロースがプレゼントを持ってきてご利用者を喜ばせてくださっている。		
----	---	---	--	--

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	出来ている。 特養、老健などのケアマネとも話し合い、支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	必要性が生じたら協働できる体制にある。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	家族、医師、訪問看護、ホーム長、スタッフでのカンファレンスなどを行い適切な医療を受けられるよう支援している。	○	スタッフが出来る医療面については、皆が出来るよう勉強会を行いたい。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	精神科医などと相談しながら治療や支援を行っている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	訪問看護に相談したり、心配な時は来てもらって状態を見てもらったりする。 週に一度は状況を報告する。		
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	医療機関と スタッフが協働できるよう情報交換はこまめに行っている。(面会に行き、情報を見るなど)		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	実施している。 カンファレンスをその都度行い、共有している。		
48	○重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	ホーム長、リーダーが中心となりスタッフ全員で支援する。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	サマリーでの生活状況を報告し、また、面会での情報交換も必要に応じて行っている。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	実施している。 理念にも掲げている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	自己決定が出来るような声掛けをする工夫している。 迷われる時には自分で決定できるような説明をし、本人に決めてもらうよう工夫をしている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	出来る限りのことは実施している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	身だしなみやおしゃれは、できるよう支援している(理美容、化粧) また、望む店に行かれる方には行ってもらっている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	野菜を切ってもらったり、食事の盛り付け、食後の後片付けなどを手伝ってもらっている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	料理によってはお酒も飲んでもらい、飲み物は希望を伺う、おやつも好みがあるので尋ねるようにしている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄表にてパターンを把握し、気持ちよくできるよう工夫している。 トイレの声掛けの工夫もしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	出来る限り実施している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	状態が悪い時には、ゆっくりお部屋で休んでもらい、「いつでも様子をみにくるからね」と安心できるような声掛けを行いこまめに訪室して様子をみる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	実施している。 歌、カラオケ、ドライブ、買い物、調理、手芸、書道、散歩など。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	出来るご利用者の方にはしていただいている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩、ドライブなど実施している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	1泊旅行、日帰り旅行、お花見、外食ツアー、紅葉狩りなどを行っている。 家族の参加もある。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご利用者さんの希望に応じておこなっている。 また部屋に電話をつけているご利用者さんもある。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	スタッフで笑顔で迎え入れ、気軽に来所していただけるよう工夫している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	---------------------	----------------------------------

(4) 安心と安全を支える支援

65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の必要がないので、行うことはない。また、訴えの多いご利用者に対しては、寄り添いのケアを工夫している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は、鍵を解除しているが、早朝、夜間はスタッフの人数が少ないため、逆にご利用者さんの安全の為玄関を施錠している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	10:00 と 15:00 に皆が集まってお茶の時間をつくっている。 夜間自立の方は、トイレのペーパーにて安全の確認の工夫等している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	包丁、はさみ等の管理、消毒液、洗剤等の管理を行い、不必要なものは片付けている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故・ヒヤリハットなど必ず報告書にてスタッフ皆で情報交換し、防止に取り組んでいる。 事故防止委員会、ケアミーティングにて再度皆で防止案の確認をおこなっている。		
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	定期的には行っていないが、勉強会などは行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		○	消防訓練は行っているが地域の方々と一緒に行うことはないので訓練時、地域の人々の参加をお願いしておけばよいと思う。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	家族とのコミュニケーションは大切に、日頃より状態の報告は細目に行っている。変化があれば、すぐ報告し、対応策など(リスクも含めて)話している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	体調の変化、異常に気付いた際はすぐ主治医、訪問看護師に報告、指示をもらいスタッフと情報を共有して対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	情報を共有し、対応できるように努めているが職員全員とはいえない。	○	出来ていないスタッフがいるので、勉強してもらおうよう努めたい
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	状態を共有し、飲食物の工夫等できている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後の口腔ケアは必ず実施している(夜間義歯の消毒にポリデントを使用して行っている)		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	栄養士が作成した献立に沿って作っている。又、量や大きさを食べ易いように工夫している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウィルス等)	感染予防のための手洗い、うがいの実施、感染症予防マニュアル、グッズ等使っている(ノロウィルス、インフルエンザ)。日々の掃除などでも気をつけている。	○	疥癬、肺炎、MRSA 等も感染症予防のマニュアル、看護師などによる勉強会で皆で取り組みたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	1日1回 まな板等をハイター消毒行う。 食材には日付をつけている。 台所の手ふきタオルは1日に何度か交換している。 食器類は高温乾燥している。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	花などを植えて家庭的な雰囲気を作るよう取り組んでいる。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等）は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居間と食堂などの仕切りはないが、他のご利用者やスタッフがいつも見えていることで安心を得られている事が多いので、仕切りのないままでよいのではと思う。 玄関には季節の花を飾っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	実施している。 テレビの前のソファでは気の合った利用者さん同士でテレビを一緒に見たり、一部のソファでは横になられたりしている。フローアでは皆、思い思いの過ごし方をされている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。			
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	実施している。 10:00 と昼食後及び 15:00 に窓を開けて換気している。温度も細目に調整している。トイレの匂いなどにも気をつけている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	実施している。 全居室バリアフリーにしている。 トイレには手すりを設置している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。			
87	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	実施している。 ベランダには洗濯物を干したり、花などお好きな方はプランターを置いて楽しんでもらっている。 外回りにも一緒に花を植えてもらっている。		

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホームゆうゆう Ⅲ

評価年月日 年 月 日

記入年月日 年 月 日

※この基準に基づき、別紙の実施方法
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 氏名 二場 美乃

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	-----	---------------------------------	---------------------	----------------------------------

I 理念の基づく運営

1 理念の共有

1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	職員全員で意見を出しあい、グループホームの理念とスタッフの心構えを掲げている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	毎朝朝礼で理念を唱和している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	実施している。 充分とはいえないが、取り組んでいる。	○	グループホームの特別行事ではなくても、日常的に立ち寄っていただけるようなプログラムを作りたい。

2 地域との支えあい

4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	敬老会、忘年会などの行事の際には事前にチラシを配布し、参加を呼びかけている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の小学校の運動会、自治会のお祭り、文化祭などに見学に行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	認知症アドバイザーとして地域の公民館に認知症をよりよく理解してもらえるよう活動している。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価を活かし、実施できていないところは改善に取り組んでいる。	○	明確な目標を立てて書面化し、いつでもそれを見ながら業務に取り組むようにしたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	半年に一度、運営推進会議を行い、意見の交換をしている。		
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	運営推進会議以外は行き来はない。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	現在成年後見制度を利用している入居者さまがいる。	○	成年後見制度についてはもっと詳しく学ぶ機会をもちたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修報告や職員会議などで学び注意している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	---------------------	----------------------------------

4 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約書の読み合わせを行っている。 また質問点はその都度受けつけ、対応している。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	意見箱を設置し、直接意見を言ってもらえるよう働きかけている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	敬老会、忘年会など利用者の家族が参加されるときに報告したり、その他にも状況にあわせて電話連絡している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	今まで大きな苦情もなく、内部で処理できており、内部で反映させている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一度のケアミーティングの時や状況にあわせ個々の職員に意見を聞く機会を設けている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	職員の確保の為に勤務調整は常に行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	実施している。 顔なじみの関係を意識し配慮している。		
5 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人研修、外部研修等を受け、育成に努力している。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	3ヶ月に1度近隣のグループホームと懇親会を行い、意見交換を行っている。	○	他のグループホームに実習に行く機会を設けたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	管理者は職員一人ひとりに話を聞いたり食事会に参加したりして努力している。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	月に1回の職員会議、ケアミーティングを行い、また向上心がもてる研修等取り入れる努力をしている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	普段の生活の中でしっかり話し、コミュニケーションをとっている。	○	ご利用者の要望には今以上に迅速に対応できるように職員同士の協力態勢を深めたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	家族の訪問がある時は必ずコミュニケーションを図っている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人やご家族の話をよく聞き必要な支援に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	当然のこととして行っている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活で本人が出来ることは職員と一緒に行動するか、手伝ってもらっている。		
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	行っている。		
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	実施していない。 馴染みの人とどこまで関わってよいか判断に困る為、ご家族に協力を呼びかけている。	○	難しい所もあるが、取組んでいきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	雰囲気作りをしている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	ボランティア活動で訪れてもらうなどしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	暮らし方を一人ひとり把握し。意向に添うよう努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ライフスタイルを大切にしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	入所時のアセスメントをしっかりと取り、把握して状況に合わせている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	---------------------	----------------------------------

2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	実施している。		
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3ヶ月たったらケアプランの見直しを行っている。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日個別記録を記入している。		

3 多機能性を活かした柔軟な支援

39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	事業所の同じグループ内に様々な施設や居宅支援事業所があるので、家族や本人のニーズに合わせ利用している。		
----	--	---	--	--

4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	努力している。		
----	---	---------	--	--

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	入退所に対しては他のケアマネや事業所と話し合い、支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	状況に応じていつでも連絡が取れ協働できるよう態勢が整っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	事業所提携の医療機関があり、訪問看護も24時間体制で支援するようになっている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	精神科医等と認知症の相談をしたり、治療を受けている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	毎週木曜に訪問看護の来所を受けている。		
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	ご利用者の主治医以外に設備の整った病院の提携がある。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	本人、ご家族の思いも最重要視して介護を行っている。		
48	○重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度化、終末期について医師、訪問看護、ご家族、スタッフとで見極めている。	○	終末期については更に勉強し、同一の意識をもてるようになりたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	カンファレンスを行い、情報交換をしっかりとっている。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。		○	声掛けには職員同士で今より更に気をつけていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	自己決定できるような声掛けに努めている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	何かを行う際には、ご利用者にどのようにしたいか、声掛けをし、確認するようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	理美容は、訪問してもらっているが、希望される方には、馴染みの店に出かけてもらっている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	可能なかたには一緒に食事の準備等手伝ってもらっている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	依頼があれば買い物に行ったり、職員が購入してくることもある。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	支援できている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	自己決定できる人には支援している。	○	スタッフの都合でなく、ご本人すすんで入浴してもらえるよう声掛け、環境づくりをしていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	---------------------	----------------------------------

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	毎月決まった曜日にクラブ活動をしたり、外出し(買い物など含む)をしたりしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	利用者のレベルに応じて見守り、支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	できるだけ外出希望に添うようにしている。	○	職員の働きかけによる外出が多いので、ご利用者の希望に添った外出を増やしたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	年に何回か遠出する。又、1泊旅行を企画している。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望する時はいつでも電話していただいている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	実施できている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------------	----------------------------------

(4) 安心と安全を支える支援

65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束は行っていない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は施錠していない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	安全確認のため、夜間は定時の見回り、日中も常に気を配っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。			
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故防止の勉強会に行った職員にケアミーティングにおいて発表してもらい、実際に取り組んでいる。		
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	今までに何度か実際の急変時を経験しており、対応できている。	○	応急手当については更に詳しく勉強会を開催するなどしたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	近隣の施設と合同で避難訓練を実施している。	○	今後は、近隣の住民にも協力してもらうよう計画したい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	小さな変化でもご家族に報告し、理解を得ている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	体調の異変があった場合には主治医、訪問看護にすぐ連絡、対応できている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬内容がすぐわかるように説明書をすぐ見られるように保管している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	水分の摂取をしっかりとってもらったり、服薬の調整をしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食後の口腔ケアを行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	栄養士のたてた献立をもとに食事を作っている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウィルス等)	マニュアルがあり，常時見ることが出来る。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	手洗い，うがいを必ず実行している。 食材も使用する当日か，前日に仕入れた新鮮なものを使用している。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関には黒板(立て型)を設置し，季節の挨拶やグループホームの行事などを書いて，親しみやすい雰囲気作りをしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等）は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	テレビの音量に気をつけたり，花を飾ったりしている。 壁画は季節によってテーマの内容を毎月変えたりしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。			
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	実際に自宅で使用していた家具や仏壇を持ち込んでおられる。畳がよい方には畳を敷いた部屋にしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	毎日決まった時間に窓を開けて換気し、居室やフロアの室温にも気を配っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	洗面、トイレ、ベッドなど一人ひとり工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	その人に合う工夫をしている。		
87	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	花を植えたプランターを置いたり、野菜作りをし、観賞したり育てたりしてもらっている。		